

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 108号

2014/09/01 発行
株式会社 立花商店

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも週を通して小動き、先週比でやや下落

① 最高 12月 LDN 市場£2,036 /12月 NY 市場\$3,229 (8/26,29) 先週比 **LDN-£8/NY-\$31**
② 最低：12月 LDN 市場£2,017 /9月 NY 市場\$3,211 (8/29,27) 先週比 **LDN±£0/NY-\$7**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£19 (傾向↑) / NY 市場\$18 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 286,421 枚(8/22 終了時)⇒287,878 枚 (8/28 終了時) **+1,457 枚**
NY市場 209,261 枚(8/22 終了時) ⇒210,955 枚 (8/28 終了時) **+1,694 枚**

2、コートジ：十分な日光照射によりメインクローブに良い兆し現れる(8/25)

先週コートジのカカオ豆の主要な生産地では、適度な降雨と晴れ間が続き、10月から始まるメインクローブに向けて、カカオの花が開花しカカオポッドが実り始めた。

世界中のカカオ豆生産地において、ミッドクローブの生産と収穫は殆ど終了し、マーケット参加者は次のメインクローブの動向を注意深く見守っている。

コートジのカカオ生産地帯の中心となっている西部の Soubre 地区では、先週は全く雨が降らなかったが、今週は雨が続き 38mmを記録した。

Soubre 地区郊外の農家は「ここ最近非常に暑く、カカオポッドの生育に良い影響を与えるので、我々農家は非常に喜んでいる。」と述べた。

また彼は「土壌の水分値がとて高く適度に湿っている。この先1週間晴れが続けば、10月からのメインクローブは品質の良いカカオ豆がたくさん収穫できるだろう。」と続けた。

コートジのカカオ豆生産量の4分の1を占める中西部の Daloa 地区では、この先2週間は例年並みの晴れ間と雨が続きと予測されている。農家は「9月の終わりから徐々に始まる収穫は、10月に入ると加速し、11月～12月にピークを迎えるだろう。」と述べた。

Daloa 地区郊外の農家は「もしも9月に晴れ間が続けば、今年のカカオ豆の収穫は豊作となるだろう。我々は化学肥料や殺虫剤で農地をケアしており、その結果たくさんのカカオの木が生育している。」と述べた。

カカオ豆の生育条件に適した天候状況は Daloa 地区だけでなく、西部の Duekoue や Gagnoa、南部の Aboisso、Agboville、Divo でもみられた。

Duekoue の農家は「先週は 3 日雨が降り、また日光の照射も十分にあった。その結果カカオの木に様々な大きさのカカオポッドが実った。これはメインクroppに向けて良い兆候である。」と述べた。また「もしも適度な雨が続けば、少なくともメインクroppが終わる 1 月までは、たくさんのカカオ豆が収穫できるだろう。」と続けた。

また、コートジvoireの中でもカカオ豆の品質が高いことで知られる東部の Abengourou 地区でも。天候が回復しており、例年並みの日射しが期待できるだろう。

この地区の農家は「ここ最近では日射しが少なかった。このため 9 月にも雨が降ってしまうと、カカオ豆の病害が発生し、拡大する心配がある。」と述べた。

3、カメルーン：2013/14 期のカカオ豆輸出量減少、15 万 8413 トンへ(8/25)

カメルーンの国立カカオ・コーヒー委員会(NCCB)によると、2013/14 期のカカオ豆輸出量は、昨年の 19 万 6788 トンから約 20%減少し、15 万 8413 トンとなった。

カメルーンは世界第 4 位のカカオ豆生産国であり、6 月、7 月単体で見るとそれぞれ 4256 トン、5472 トンを出荷しており、7 月をもってライトクroppの収穫を終えた。カメルーンのカカオ豆のシーズンは 8 月 1 日から翌年の 7 月 31 日まで続く。

NCCB 当局は「輸出量の減少の理由については、すぐに明確にすることは難しい。ただ考えられる理由の一つには、農家個々人が、カカオ豆の国際価格が上昇することを待って高値で販売しようと、カカオ豆を抱え込んでいることが挙げられる。」と述べた。

カメルーンはここ最近、自国で生産したカカオ豆をカメルーン国内で圧砕しようと試みている。

また国内の輸出業者をみると、6 月には輸出業者は 11 社であったが 7 月には 15 社まで増加していた。取扱量トップは Telcar Cocoa Ltd で 1505 トン、そして Cameroon Marketing Commodities(CAMACO)が 1154 トンと続く。

カカオ豆はアフリカ諸国にとって主要な収益源となっている。カメルーンでは 2010/11 期にカカオ豆生産高が過去最高の 24 万トンを記録したが、カカオ豆の病害や長い乾季が続いた影響で翌 2011/12 期には 22 万トンへと下落した。しかしまたその翌 2012/13 期では 22 万 8948 トンへと上昇した。

NCCB がロイターに公表した情報によると、NCCB は 2013/14 期には 23 万 5000 トンになると見込んでいるが、他の機関である the Cocoa and Coffee Inter-professional Board(CCIB)は 24 万トンになると見ている。実際の結果は来週に発表される予定である。

また NCCB からの情報によると、カメルーンの主要な圧砕業者は今シーズンの終わりとなる 7 月までで 3 万 3378 トンを仕入れており、昨年の 3 万 1969 トンより上昇しているという。

スイスのバリーカレボーの関連会社である Sic-cacaos 社は、カメルーン国内でカカオ豆の圧砕業を行っているが、同社の圧砕高はカメルーン最大でありシーズン合計で 3 万 2452 トンのカカオ豆を仕入れている。また CHOCOCAM 社は 926 トンのカカオ豆を買い付けた。

4、チョコ供給が停滞＝エルニーニョの影響でエクアドル産カカオ豆ダメージ受ける(8/27)

エクアドル産カカオ豆は世界有数のフレーバービーンズとして知られ、今やエクアドルは南米最大のカカオ豆産地のブラジルを追い越す勢いがある。

エクアドル政府によってカカオの苗木を植え付ける支援プログラムやエルニーニョ現象の終息により、2014 期のカカオ豆生産量は 9% 上昇し、24 万トンへと伸びる見込みである。

(エクアドル・国立カカオ輸出業者機構＝Anecacao からの情報による)

この予測数字は、国際カカオ機構が予測している 21 万トンよりも 14% ほど高くなっており、またブラジルの生産高予測量よりも 20% 高い。

南米はコロンブスの時代から、チョコレート用として脂肪分の高いカカオ豆を栽培してきた。

そして世界経済が成長し、収入が増えた人々が急速に高級志向のチョコレートを消費するようになった中で、南米産のカカオ豆はそうしたチョコレート需要に対応してきた。

先月、世界最大のチョコレート消費地である欧州と新たな貿易の取り決めをまとめ、欧州諸国がエクアドルのカカオ豆栽培を支援することとなった。

～アリバカカオ種～

昨年ブラジルで the witches' broom fungal disease (てんぐ巢病*枝が分岐し魔女のほうきのように膨らむ症状) が蔓延し、カカオ豆生産量が減少した。1980 年代から繰り返しこの病気が蔓延した影響で、ブラジルは世界最大のカカオ豆生産国という地位を退いた。そして今やコートジが世界 1 位で約 160 万トンのカカオ豆を生産するようになり、次いで同じく西アフリカのガーナが 2 位となっている。

一方で、エクアドルのアリバ種は高級チョコレートや通常のチョコレートに使用され、コモディティ向けのカカオ豆も大量生産用チョコレートに使用されるようになった。そして世界最大の食品メーカーのネスレの様な企業が、エクアドルのようなアンデス山脈地帯でのカカオ豆産地でビジネスを始めた。

～農家への融資枠増加～

エクアドルのカカオ農家は政府と共に栽培に取り組んでいる。現在の収穫量から 2 倍ほど多い、1 ヘクタールあたり平均で 20 キンタル (約 900 kg) のカカオ豆の収穫を目指している。

農業省はエクアドル国内農家の為に融資限度枠を増やし、これまでに殺虫剤や農業訓練費も供与している。政府はまたバナナ農家に対して、カカオ豆農園への切り替えを推奨している。バナナはエクアドルにとって最大の輸出作物であるが、カカオ豆の方が農家は高収入を得られ、またバナナに比べて環境的なダメージを受けにくい。

～エクアドルカカオ豆の今後～

カカオ豆の輸出業者は、エクアドル産カカオ豆の品質の高さ故、エクアドル産であるということを証明できるトレーサビリティを重視する傾向にある。またチョコレートの消費者は、チョコレートの原料がどこからきているのか、その産地の労働環境はどうかという点についても興味を示すようになった。エクアドルのカカオ豆生産者は「我々はただ単にカカオ豆の生産量を増やすことだけを考えていない。高品質のカカオ豆作りを目指している。」と述べた。

5、ナイジェリア：クロスリバー州のメインクロップは豊作の見通し(8/27)

ナイジェリア国内で第2位のカカオ豆生産地であるクロスリバー州では2014/15期のメインクロップの収穫が始まった。今期の収穫量は約15%上昇する見込みである。

ナイジェリア・カカオ協会の代表であるRiman氏は「クロスリバー州の2013/14期のカカオ豆生産高は6万トンにとどまったが、天候条件が良かった為、今期は15%の上昇の見込みがある。」と述べた。彼はまた「同州からの品質の良いカカオ豆はすでにラゴスの輸出業者へと運び込まれており、出荷に向けて進んでいる。昨日だけでも300トンものカカオ豆がトレーラーで港へと運ばれてきた。ここラゴスにはApapa港とTin Can Island港という主要な港がある。」と述べた。ナイジェリアのカカオ豆は主にこの2つの港から出航されている。

クロスリバー州はナイジェリア東部最大のカカオ豆生産地であり、南西部のOndo州に次ぐナイジェリア第2位の生産地である。同州だけで年間約6万トンのカカオ豆を生産している。

Riman氏は「2014/15期のクロスリバー州のメインクロップの収穫量は非常に良いだろう。今年は天候に恵まれた。降雨が定期的に降り続き、例年よりも日光の照射もある為にカカオ豆を十分に乾燥させることができるだろう。」と述べた。

クロスリバー州の州都であるCalabarのトレーダーは「ここ最近雨が多かったが、雨の合間に十分な日差しがあり、メインクロップが順調に育っている。」と述べた。

また「乾季は10月に終わるだろう。ちょうどそのころがメインクロップの収穫をしている時であり、農家が天日干しでカカオ豆の乾燥をすることができる。この方法の方が、通常行っている乾燥方法よりも良いとされている。今シーズンはより多くのカカオ豆が収穫され、トラックでラゴスまで運ばれるだろう。」と述べた。

今週のカカオ豆 インターナショナルカカオアワード 選定基準

今週はフランス・パリで行われている『サロンドショコラ』で開かれているカカオ豆の品評会で優れた品質のカカオ豆に贈られるインターナショナルカカオアワードの選定基準についてレポート致します。

当社で現在取り扱っている『ベトナム産カカオ豆』、また10月頃取り扱い予定の『ホンジュラス産カカオ豆』も2013年にこちらのインターナショナルカカオアワードでベスト15に選ばれた農園から調達したカカオになります。

「Zig Zag」 ニーダーという機械はまだ調査中ですが、審査にあたっては 2 時間のコンチング時間と通常より短い処理時間でサンプルのカカオ豆の味の評価をしていることが分かります。

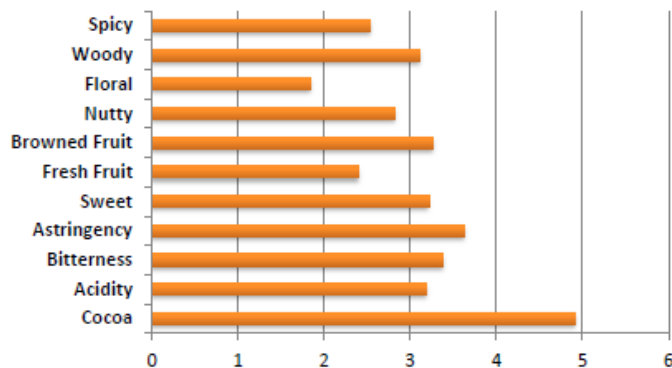
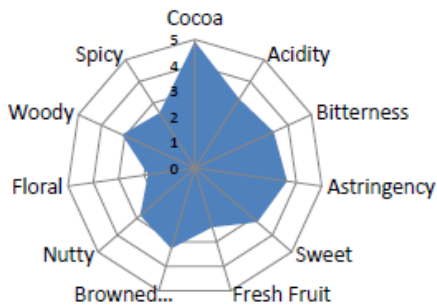
またカカオリカーを 2 分割にして追加で投入するという独特の製造工程も、本イベントのような国際的な品評会で採用されていることを鑑みますと、味の違いが分かりやすい製造工程である可能性があります。是非、当社でも同一方法でチョコレートのサンプル作りを実施してみたいと思います。

選定方法

- ・世界各国のカカオ豆の生産者から本品評会への応募者を募ります。
- ・最大 224 件が受理可能枠。2013 年度は計 24 カ国 121 件のカカオ豆の応募があった。
- ・第一次審査：生豆のカットテスト。今年は 7 件のカカオ豆が落選した。
- ・第二次審査：カカオマスでの官能評価。6 名の審査員により実施。
- ・第三次審査：チョコレートでの官能評価。カカオマスでの官能テストのうち**ベスト 50**だけがチョコレートへ加工され評価される。

全て同一の方法にて製造されたチョコレートを 33 名の専門家がブラインドテストにて官能評価し、4 地域（アフリカ、中米及びカリブ海地域、南米、東南アジア太平洋地域）から**トップ 15**を選び出す。

procedures.



第三次審査のチョコレート配合

配合：カカオマス	61%
砂糖（ビート）	33.5%
脱臭ココアバター	5%
大豆レシチン	0.5%
粒子サイズ	1.6 – 2.0 μ

香料は不使用



審査用チョコレート製造工程：

- ・原材料計量
- ・「zig zag」 ニーダーで砕いた原材料を混合する。

(カカオマス 34%、砂糖 33.5%)

- ・ 3つのシリンダー付き機械ですり潰す
- ・ 「zig zag」ニーダーで2時間 60-65度の温度でドライコンチェにかける
- ・ 下記の原材料を加えた後に30分「G U E D U」のミキサーで精練する。
カカオマス 27%、ココアバター 5%、乳化剤 0.5%
- ・ 5gのミニタブレット型に流し入れ固める.

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp